

雫石町小学校適正配置検討委員会
第2回検討委員会議録

平成24年8月29日

雫石町教育委員会

平成24年8月29日雫石町小学校適正配置検討委員会を招集した。

場 所 雫石町役場2階201号会議室

時 間 15時45分～16時45分

※当日は、会議前に橋場小学校と七ツ森小学校の授業風景を30分ずつ見学した。

1. 出席委員

副委員長	高橋	繁
委員	平子	圭
委員	足立	頼子
委員	坂井	和久
委員	栗木	将史
委員	櫻田	正行
委員	中南	博
委員	志戸前	正勝
委員	村田	賢一
委員	煙山	和彦
委員	高橋	與右衛門
委員	小赤澤	直子
委員	吉田	敏子
委員	佐々木	登和子

2. 欠席委員

委員長	立花	正男
委員	村田	崇

3. 事務局から説明のため出席した職員

雫石町教育委員会教育長	吉川	健次
雫石町教育委員会学校教育課長	高橋	啓二
雫石町教育委員会学校教育課主査	田辺	茂

4. 書 記

雫石町教育委員会学校教育課主任	坂井	一博
-----------------	----	----

5. 開会宣言

田辺主査 協議を始めさせていただきます。4. 協議から進行は委員長が議長を務める形ですが、今回委員長が欠席ですので副委員長の高橋先生お願いします。

副委員長 立花委員長が急遽都合ができましたので、私が進行することになりました。今日橋場小と七ツ森小の授業を参観し何が適正と言えるか、どういう学校集団であればそれぞれの子供がより一層持てる能力を発揮できるか。それらに関して私共の感じ方、在り方、展望がそれぞれ胸の中に浮かんでこられたと思う。良さ、凄さ等思ったことを率直にお話いただき、適正の意味について理解を深め合うといいかと。どうかご協力を賜りますようお願いいたします。

それでは適正検討委員会の名簿の順に従い、橋場小と七ツ森を参観しての感想を発表していただき、問題点等を整理、さらにそのことについて深めていくような方法をとりたいと思いますがよろしいですか。

委員 もう少し時間が欲しかったのが率直な感想。橋場小に関しては私の母校で、校舎、校内ともすっきりした環境が整っているイメージを持った。七ツ森小はやはり100人を超えているので橋場小のすっきりしたイメージではなかったが、元気な声が聞こえる感じがした。複式学級のメリットは、5・6年生の複式学級で6年生の指導時に、5年生は自分達2人がしっかり話し合っただけで学習して素晴らしいなど。単式学級のメリットは、5年生の学活で学級委員を決める際、みんなが意見や話し合いで多数の意見を聞きながら考えていて、みんなで考える時間は大変必要ではないかという感想を持った。複式学級のデメリットは、2・4年生の複式学級で先生が2年生を教えている時に4年生が1人で考える時間が多く、寂しそうだった。あと班というものがないと思うので、班長や学級委員の役割がどうなっているかを聞きたかった。単式学級のデメリットは、先生が話している最中に私達に気をとられてざわついてる子供が多いと感じた。

委員 両方必要だと思った。複式は授業の理解度が深まっていい。自分が板書を受けた後、もう片方の学年が板書を受けている間に板書を書き写したノートを見て深く考え、その場ですぐ復習ができて理解が深まる授業だと思った。七ツ森小は色々な人がいて色々な考え方がありと認め合える。あの子気に入らないけどこういう良い所もあるよね、と認めあうことができると学活を見て思った。授業に関して複式は深く掘り下げて勉強できるのがいい。集団は集団で仲間の良さを認め合うことも大事。複式で一番心配なのは、中学校の大人数のプレッシャーは大丈夫かと少し心配な部分があった。七ツ森小ぐらいの人数だとクラスに何人かは振り分けられて仲間がいて心強いと思うが、その学年に自分しかいなかったりすると心細いはず。そこでくじけなければいいと思う。

委員 複式・単式関係なく、受けた印象としては子供達のことを思えば統合もいい

かとも思いますが、初めて橋場小を見たら統合しないでこの地域のため、出来上がったこの地域スタイルでやった方が凄くいいのではとも思った。ただ子供達のことを見ると、4年生が1人しかいないので少し寂しいかなと。同じ学年で何人かと一緒にいれば話し相手もいるだろうと印象は受けた。〇〇小も複式はあるので理解はあるつもりでいる。個々に対して深く指導できることは、複式でなくても少人数だからこそ手が行き届くこともある。セツ森小を見て私も大人数の所を見たのは初めてで、班になってグループごとクラスごとに活動しているのを見て、同じ学年の中でグループを作って活発に活動ができる利点を感じた。小規模校だと少人数なので誰かが役員をやらなければと責任を持ってやるようだが、大きい学校だと立候補はいても役員をやらずにそのまま1年間なり表に出ない子がいると考えると、頑張る子は頑張る、目立たない子は目立たないと分かれてしまう。先生方がそれぞれの子供を引き出してくださるとは思うが、人数が多いと手が回らない部分も出てくるかなと感じた。

委員 複式学級のメリットとして、自分ではないもう一方の学年に先生が教える間、先生の話に気を取られないよう自習することで集中力が身につくかな、という印象を受けた。低学年の頃から個々がやらなければ学校が回らないことがわかっていて、前面に出てやるのが自然に身につく、それが当たり前になるのかなと感じた。2校見て低学年に関してはそんなに変わらない印象。やはり学習が難しくなる4年生あたりが2校どちらも学習方法を考えることが複式・単式共同課題と感じている。複式学級のデメリットは教える側が一つの学習に対して集中できないかなと。5年生だったら5年生の授業だけを見ることができないと感じた。単式学級のメリットは人数が多い分自分で前に出なければ目立たない。自分で前に出る児童が何人か見えたので、そこからリーダーとしての資質が出てきていい気がした。人数が多くなればその中で社会が出来るので、社会性を身につけるには多いといい。教える先生も、1授業1学年の授業を教えるという集中できる学習の状況が先生の個性も出せていいかと感じる。デメリットとしては人数が多い分先生の目が行き届かない。6年生の英語の授業で本当に解っているか、覚えているか、と個々を確認できないのがあると感じた。複式は人数が少ない分分かったかどうか1人ずつ確認できて、この辺のバランスを取るのが人数の多い場合の課題と感じた。2校とも特徴があって、統廃合に関しては2校とも残したらいいのかな、というのが自分の率直な感想です。

委員 今日橋場小で複式学級の授業を初めて見た。アンケートは見たが、マンツーマン教育的な所で指導が行き届くか、学力の低下等心配していたが、複式だから学力が低い子供が育つわけでもない分かった。色々な掲示物を見ると地域あつての学校でうまく地域としての学校が存続し、地域としての良さをよく感じた。デメリットは複式でも少なくとも3~4人いれば良いとは思いますが、橋場小

は4年生が1名。今は2年生と一緒に来年は多分5・6年生となる。1人の年の子に関すると、自分の同級生がいない環境で育っていくこと、その成長過程を推測するとやはり同じ小学校の同級生が数名は欲しい。こういう1人だけという年のことを考えておけばいいかと。七ツ森小最大のメリットは集団生活の有意義性、必要性を教育するため20~30名の教育は将来社会に出る上でも必要。デメリットは私的に25~26名の人数は多く感じて、学力という部分では先生の手も行き届かない。例えば英語のアクセントの問題やヒアリングは共通に共有できるが、話す部分では複式が英語教育に関してはメリットがあるのでは。逆に七ツ森小ではデメリットに働く。学校は学力を指導する場所なのか、集団生活において心の問題教育をするのかどちらが大事ということはない。いずれ今回の検討委員会において総合的に判断する上で運動会の競争も各学年友達同士一緒にやる方が将来を考えれば良いとも思うし、橋場小のように地域密着型として存続している学校は地域の意見を踏まえて存続という形でも良いと思う。

委員 橋場小に行けず大変失礼しました。比較はできませんが拝見した七ツ森小と私が最近拝見した〇〇小と比較して感じたことを伝えます。4~6年生を注目すると〇〇小と比べて人数が1~2割ぐらい多い。子供達が刺激し合って伸びていくようプラスに働いている学校という感じで見た。5・6年生になると規模が大きいというより非常に難しい年頃になるので、授業に背を向けるような子も少し見られたがこれは時期の問題と捉え、七ツ森小が少し規模が大きくなっただけで、かなりの刺激し合いが出ている気がしてメリットと感じたところです。

委員 複式のメリットは人数が少ないなりに1人1人の発言力は大きい。どんな場においても自分の意見を言える力を橋場小の子供達は持っている。これは小規模だからではなく先生の力が非常に大きいと言うか、中学校に行っても頑張れるようにという気持ちでそういう子供に育てていただいているのが結果に表れていると思う。行動力もちろんあると思う。学習も解らないところは解るまで徹底的に教えてくれるし、逆に自分の得意な分野も伸ばしていただいている。うちの子供に関しては非常に数字が好きで、先生方に力を入れていただき他はだめでも算数だけは出来た。勉強全体ができるのがいいと私は思っていない。やはり個人ですので体育、理数系、文科系が得意な子、得意になる子がいるのでそれはそれでいい。みんなが全部できるのは無理な話なので、個々の力を伸ばすという面ではメリットが高い。デメリットですが、複式なので2・4年、5・6年同じ教室で勉強している。普通の学校だと例えば5年生の授業を1年間一貫して国語も算数も教わる。複式は5・6年が交互になるので、そのあたり薄くなっているかなという不安はある。中身の濃さの問題。これに関しては私もわからないので先生方に色々やってもらっているがデメリットにあたるかと。単式のメリットは、班編成の場面でその班に4~5人いる中で、考えをまとめる力を

持つなど。自分だけの考えを言うのではなく、違う 5~6 人の考えを聞いてそれをまとめて班として発表する力、そのあたりの力がやはりつくかと。色々な視野が広がっていくことを考えた。これはデメリットかもしれないが引っ込み思案な子もいて、リーダー的存在で授業を引っ張る子、もしくは授業中に集中している子、集中していない子は目について、もちろん先生方も大変だと思うが、そういう面で二分化ではないが別れてしまう危険性もあるかと感じた。

委員 複式学級のメリットとしては、家庭教師がついているように集中した根気強い学習が出来ると思った。1人1人が授業内容をしっかりと理解し、先生が見ていない間も子供達が自分で授業を進めているのが見受けられた。複式学級のデメリットは、授業の形が限られてくるなど。恐らく今日見たような形からは変えることは出来ないと感じた。10人いれば10人の意見から正しい答えを導き出していくことは可能だと思うけども、2人の中でその答えがない場合に、先生がその答えに誘導していくような質問をしているのも見受けられた。単式学級のメリットは1学年に決められた時間を集中して使えるところがいい。班編成の話も出たが、人数が多いので色々な形に変えて授業を進められるのは子供達にとってもいい。デメリットは担任に頼りすぎて全く手を挙げず発言をしない子がいる。集中できない子も複式に比べると目立つと感じた。今日一日の感想として複式と単式では正反対のメリットデメリットがあるように感じる。どういう授業を受けさせ、どういう教育をさせるか。自分の子供がこうだからこういう学校に入れたい、と思うのは親の判断しかないかなと思った。

委員 複式のメリットデメリットではなく、橋場小の場合は地域との関係をどう考えるかが一番だと思う。地域の住民とよく話し合えないと、残すか残さないかは私達が簡単に言えることではない。七ツ森小は普通の学校に行ったようでほっとした。うちの学校も複式ですが、20人近くいて班があって、みんな同じことを勉強するというのが普通の学校かなという印象を持った。

委員 ○○小にも勤務しておりましたし、○○小にも現在おりますのでメリットしか目につかない。橋場小の子供達は1人1人が自分の存在価値を見出しながら先生方、地域の方にとっても大切にされ、そういう支えてくれる人が沢山いるのを心の支えにして一生懸命頑張っているし、真剣にやっているので、みんな力はある。学年1人となると考える部分も出てくると思うが、それでも学級編成で工夫して1人にならないよう組んでいるということで、集団としての力がつくよう出来る範囲内で頑張っているところに大変関心している。七ツ森小も10名、20名の学級があるが、私はあのぐらいの人数の中では比較的素直な子供が多いなど。困った子がどこの学校にもいますが、うちの学校は特に素直だなど。なぜだろうといつも考えるが、いつも自分を心配してくれる地域、親、先生がいて七ツ森小って素晴らしいなど。28年ですが色々な歴史があって、先

輩方が頑張ってくださいって、先輩に対してもさらにいい学校を作っていくという気持ちが自分達にもあるので、素直に何でも一生懸命頑張ろうという気持ちが出る。今日の授業はいつもの6時間目の子供達を見ていただいた。

委員 それぞれの規模に合わせて工夫した授業をどこでもやっているの、前回出たメリットデメリットと同じ。本校の人数が少ないのは見ていただいたとおりで、それを良さとすれば学習のすぐその時に気付けることになる。中学校に行った時に皆さんの心配したことがないようにと小学校から言っておきます。七ツ森小を見て、多様な考え方が出来るのはいいと率直に思いましたし、非常に快活な子供達で人数が多ければそれなりの良さが出てくるとは思った。

委員 久しぶりに学校の授業を見させていただいた。メリットデメリットといった形で考えるのがいいのかと実は感じた。橋場小を見て一番感じたことは、教える先生が一番大変だなと。同じクラスに学年の違う対象者が2つあるわけで。しかも、1対1ではなく1対2や1対3もあるわけで、そうした場合に決められた45分の中で2学年に教えるわけで。実際に教えている先生方の声も聞きたい気がした。七ツ森小ははっきりいって普通の学校だなと。子供達のこと考えると普通であれば、15人以上20人ぐらいの学級で子供たちが生活できれば共同生活も勉強できるだろうし。学力的な学習効果だけを学校に求めるわけではないと思う。共同生活というか全体が1つの中で動くことを体験して覚えることがより重要だと思う。昔は学校で学力、家庭でしつけと言われた気がするが、今は学校にいる時間の方が長いと思う。親御さん達共働きの場合が多いと思うので、どうしてもしつけも学校に要望されている父兄が多いように私は見ているので、多分学校も相当なプレッシャーになっていると思う。中学校と週に1回懇談会をやってそこで出てくるのが、小学校時代から学校見学で交流していても、なじむのに時間がかかる1年生がたまにいます。その子供達が問題になってくるケースが多いと言われているので、やはりある一定の規模の中で自然に団体生活を覚える空間をセットするのはやはり大人の責任かと。学力については、橋場小のように同じ時間の中で2つの学年を教えるとなると相当な技術が必要になると思う。結果論とすれば、そういう現実の中で教えなければならないので、その努力については脱帽して今日見て参りました。

委員 橋場小に子供達が2人いた当時、30人くらい全校生徒でいたけれどその延長が今あって、七ツ森小に行ったら普通の学校いいなと私もほっとした。子供達も班編成やりながら、笑顔で相手の話を聞き、答えて、ああいう学校がいっぱいあっていいのではという気がする。卒業した子供達から聞くと中学校に来た時はすごく大変だったと言われて。それを踏まえながらこれから考えたらいいかと思う。確かに橋場小の子供達は発表の場もいっぱいあってどこに行っても恥ずかしくないような話をするから、最初から七ツ森小ぐらいの人数で勉強し

たら、色々相手のことも見いだせる。そんな場所があればいいかなと感じた。

副委員長 ただ今皆様から率直なご意見をいただきました。皆様が感じたこと、まず 1 つは学術については複式・単式、小・大規模校関係なく学力は十分と感じたということが大多数の皆さんのご意見でした。ただもう一つはやはり集団的な社会性を考えた場合に一体どうなるか。複式は授業が 1 つの方法や形になってしまいがちではないか。人数がいれば様々な意見が出てきて先生はうかうかしてられない緊張感がある。そういうことを皆さんがご指摘されたと思っている。決め手はやはり複式がメリットデメリットどちらが多いとは一概に言えない。しかし中学校に上がったことを考えれば、それぞれ小さい時からの同級生や友達がいって、そうしていった方が学校教育としていいのではと私としては大きく傾いているように聞こえた。いずれもう一回言うと単式複式が 1 人 1 人の子供にとってどちらがいいかは一概に言えない。学力については単式複式同じように、むしろ複式が家庭教師のように親切に骨身にわたって指導ができるかと。しかし、同じ時間に先生が 2~3 学年について考えるとなるとこれは容易ではないということを説明された。やはり班になったりお互いが磨き合って刺激し合ったり、あるいは先生も児童から刺激を受けるようお互いに学び伸びるという学校の姿がいいのではというご意見と私は思った。このことについて、それは副委員長の過程じゃないかのご意見があればどうぞ。大体良いでしょうか。実際に今も 1 人 1 人の子供達の学力について遜色がない。いいことですね。

問題なのは集団意識というもの、あるいは社会性の育成。将来中学校に行って何学級・何百人となった時のことを考えると、これは 1 つの大きな問題になっていくであろうと思う。どこの学校に入れるか親の考えにしかならないのではという意見はその通りかと。町全体の義務教育における町民の意識、国民としての認識や意識を隔てなく公平に平等に育てていく学校の役目からした場合に、これでいいのかという課題が出てくる。それは全体的な集団生活における自己という社会性というものを身につける必要性。集団の意見をどう聞きどうまとめるかというもの。あるいは集団の意見に反対されたときに自分の意見を主張し続けることができるか。例えばいじめの問題がたくさんあるが、そういうことも小学校から考えて教育にあたらなければいけない問題でもあると思う。色々意見をいただきましたがこれについて考えたいという方がいらっしましたらお願いします。今私が課題に出したのは社会性。集団的な感じ方や社会性をどう磨いていくか。人数の多い中学校に行って自分の考えを堂々と言えるということがなければいじめに耐えられる子供になっていかない。そういう力を育てることから考えると、やはり適正な学校という規模については当然考えていかなければならない問題ということはここではっきりしている。もしその他にあればお願いしたいですが、もしなければ社会性の育成、あるいは集団的

な意識についてのご意見、問題点等皆さんからあればお願いしたい。

委員 今いじめが出ましたが、それに関して学校の規模は関係ないと思う。発言力は人数が多いから、少ないからということではないと思う。大規模校だからみんなの前で発言できる、小規模校だから発言できないという考え方は違うと思う。小規模でも言える人は言えるし、大規模でも言えない人は言えない。学校の人数ではなく、後は子供の感性、発言力ではないかと思う。

副委員長 私の言ったことが舌足らずな点があったのでもう 1 回言ったことの意味を申し上げます。いじめとかが大きな学校であればいいとか小さな学校であればいいということではない。将来的に大人数に行った時に自分の考えとかを言える、そういう下地を作るのが小学校の教育ではないかという。それにはある程度の規模が必要ではないか、ということです。

委員 実は子どもが小学校に入るまで八幡平市にいた。すごく人数が多く、保育所で百何十人という人数の子供がいて、自分の子供はその中の 1 人でしかなくて特に目立った部分もなく、運動会もどうでもなく。本当に 30 人の中の 1 人となった時に、自分は人数の少ない学校で過ごしたので、すべて自分でやらなければいけなくて、中学校に上がった時は何の苦もしなかった。むしろ、小さいところで頑張って、色々な大会に出て色々な学校の子達と話をし、中学校に入った時にもすぐ入っていった。当然向こうからも声を掛けられて。もしかして、うちの子も家に戻って小さいところに入れて自分がやらなければならない、30 人の中の 1 人ではなく、1 人の存在を出せるかなと思って戻ってきた。結果、うちの子は本当に何も言えず足も遅かったのが、歯をくいしばって足も速くなって、人前でもある程度話せるようになって、全然物怖じせずこないだは A4 用紙 2 枚をほとんど紙を見ずみんなの前で喋れました。うちの子は小学 4 年まで〇〇小の言葉の教室に通っていた。そのぐらい舌足らずでした。小さい学校でも物怖じせず、自分がそういう教室に行っていたことを認識していますが、何も恥じることなく堂々としていた。大きい小さいでなく、ものを見る力は逆に小さい方がつく可能性もある。授業とか教育の形を求めるのは親の判断かもしれないといったのは、私が息子に関して小さい学校を選んだことを後悔していないから。今度入る娘に関してはもしかしたら大きい方がいいかなというものもありますが。それは本当に親の判断で、ものを言える言えないは関係ないかと。

副委員長 分かりました。それは個々の問題は様々あると思います。ただ私が言ったのは一般的な論としての話。大規模校から小規模校へ行った方は珍しい。大抵、小規模で限られた人数にいて、大人数に行くと一般的な問題とすればかなり抵抗があって子供達は苦勞する。ある意味で苦勞することは大事だと思います。そういうことを考えると適正配置を考えなければということでもあります。

委員 発言力という言葉が出てしまったものだから、発言となるとおそらく小規模

校の子供さん達の方が、小学校で色々発言する機会が多いと思うので、客観的に見れば発言力が強いのではと。逆に同じ学年で多様な意見交換をする機会が少ないという定義でいいかという。

副委員長 私の発言力の意味について申し上げますと、聞かれたことにただ話すということ。これはもちろん発言になるが、発言力といった場合に多くの意見を聞いてその意見を判断して話せる力を発言力という。そういう発言力をつけるには小規模校より大規模校の方がいいと思う。そういう意見です。

委員 それであれば理解できます。ただ、発言力というのは、言葉だけで判断するので、発言力をこの報告の中にまとめるのであれば、少し噛み砕いた表現で整理した方がよろしいかと。

副委員長 発言力といえば自分の話をする人が発言力があると一般的には考えがちですが、発言力の本当の意味は多くの人達の意見を聞きながら、しかもその意見の中から自分の意見を推進しながら反論できるという発言ができること。日本人の問題はディベート力が欠けていることがある。日本の外交が弱いのはディベート力がないからというのがあったり、領域問題に関しても言いたいことをはっきり言わず、いい加減した時に今こうなっていると意見がたくさん出る。そういう意味で多くの意見を聞きながら、それはそれとして、これはこうだ、という意見を聞きながら自分の考えをぶつけて判断し、その上に立って発言できる力が発言力です。そういう意味で私は使っているんで、ご了承ください。

委員 コミュニケーションの交換、それは直接的な言葉ですね。結局言葉の交換ができないとコミュニケーションが取れない。ある一定の訓練ができる場所を設定するのが大人の責任という気もする。私も 71 歳ですが、高校を出て神奈川県に就職、仕事の分野が何回か変わっているので今でも 400 枚ほど年賀状のやりとりをする。コミュニケーションをすることによって情報ももらえるし、逆に求められることもある。コミュニケーション能力を個人で作るのは無理。やはりそういうグラウンドを作ってセッティングするのは子供の時は学校だと思うし、それを見守ってくれる先生方の努力だと思いますし、家にいる時は親だと思う。そういうことを含めて考えると、チャンスが多く与える、場所を作るというのも大人の責任かと。すると 10 人の学校よりも 100 人以上の学校の方がそのキャッチボールができるチャンスが多くあると思うので、自然と会得できる機会がたくさんあると思う。そこも考えるべきかなと思う。

副委員長 次の問題として、地域と学校の間をどう考えていけば良いかも 1 つの課題となって見えてきている。地域あつての学校という、地域が子供達に果たしている役割は誰もが否定できないすごいもの。発言力に関してはコミュニケーションの問題と委員さんにまとめていただいた。PTA の会員のご父兄さんが考えられていること、そこに育って学校の地域で暮らしている方々の学校に対する愛

着と思いは格段の違いがある。私が西和賀で統合のときに一番苦しんだのはそれでした。歳をとられた方や元町内会の会長さん、元行政区長さんがおられると PTA の方々が何にも話されなくなる。夜に電話がきて、何も言わなかったが親とすれば早く統合してもらいたい、と言われてたり。地域の人達を自分の意見に賛同させるのが大変なこと。そういった難題が含まれている。

委員 地域の方達との懇談のようなものはないのか。

副委員長 それについての時期はどう考えているか。

高橋課長 検討委員会では子供にとって望ましい教育環境というものをまとめていただき、それに沿ってではどういったものができるかを形にし、そこから計画を立て、さらに地域に入り、委員会でこういう意見が出たと進めていくしかない。

副委員長 まず検討委員会として、1人1人の子供達の無限の可能性を見出して開いていくという学校の役割を満足させていくために、どうあればいいか討議しながらまとめてほしい。その上に立って地域の話し合いが必要であれば話し合いをするということでした。

委員 この意見とは、私達個人の意見でいいのか。それとも PTA の総意を聞いてまとめた意見として持っていったら良いか。

高橋課長 本来であれば、PTA の方々の考えをある程度集約して出していただき、まとめるのがベターだと思いますが、ただそれは難しいと思います。

委員 小さい学校はいいと思いますが、大きい学校は無理だと思いますし。

高橋課長 ですのでみなさんの考え方ということで。もし、委員さん個人的にお話が来ていけば、委員さんの方でまとめて出していただくと形でも宜しいかと思えます。PTA の会を開催して、1人1人の意見をということでは全くないです。

委員 7月半ばに小学校の PTA 理事会があり、その他のところで前の検討委員会のメリットデメリットの概要を簡単に説明し、10人ぐらいの役員のお母さんに意見を求めたが誰も何も言わず、話に触れにくい感じもあるようで。

委員 多分雫石小、七ツ森小と大きいところは直接関係なく、それぞれの学校で温度差があると思う。例えば、上長山小、下長山小、西根小の同じような規模で3校統合するとなったら西山小学校です、と新しい小学校になりますよね。御所だと大村小、南畑小、安庭小3校合併で御所小学校です、と。御明神地区で御明神小、橋場小で御明神小学校です、とすると、御明神小だったら橋場小は吸収合併になるのかと、心情的に。それぞれの当地の所によって色々な心情、思いもあって、ではこの会があと2回ぐらいで結論が出るかと考えると、なかなか難しい所もあると思う。極端な話、多数決では決まらないですし、皆さんで具体的に賛成・反対ある程度はつきり提示して話を進めていく。ただ、いきなりどちらかは言えないですし、相当な手間暇もかかる。でも今のままで、何も変えることはなく不便はなかった、となれば何もしなくていいことになってし

まう。もっと突っ込めばいい話し合いができると思います。

平成 22 年度に全町でとったアンケートに目を通しましたが、橋場小も大村小も 1 学級 10 人程度の規模になったら良いと出ている。ところが橋場小も大村小も複式学級で良いという回答が半数以上出ている。10 人程度になって欲しいけど複式学級でも良いと。さらに橋場小はこの学校の規模が適当であると出ている。この学校では小さすぎるという意見は上長山小、大村小、南畑小で出ている。平成 22 年のアンケートなのでこれが今の意見ではないかという思いもある。

以前大村小の親御さんに聞いたら、自分の頃も複式だったから不安も何もないという。親御さんの時もそうだったので子供達が複式でも不安はなく、自分の親の世代から複式なのになんで今更と思っていると思う。私達は新たに複式やりますとなった時には、複式でも大丈夫か、という思いでした。私としては突っ込んだ意見を言わないと話がまとまらないかなと思っている。

副委員長 おっしゃる通りだと私も思います。このままではまだ序の口に入ったばかりです。これから問題なのは子供が育っていく学校教育の役割や、どこまで学校教育が子供達の成長を図ることを狙っているかを考えていった時に、初めて学校規模それぞれの陥りやすい限界、そういったものが明確になってくると思いますし、そういったものを全体的に把握しながら町全体としてはこうあるべきではないかということが出てくると思う。今日明確になったのは、学術については複式・単式もきちんと学習ができて学力に差はないということがあった。全体的な社会性やコミュニケーションとなるとやはり不安が残るのではないかと。将来的に中学校や高校を考えた時に、さらにそのことについて吟味や話し合いが必要になっていくということがわかった。これらのことをもう少し話し合っていく。ただ、PTA の会長さんがほとんど委員になられている。PTA の会長さんは会員さんを代表して意見するとなると大変なことなので、今のところは PTA 会長さん個人の意見を出して練り上げ、考えていく方向で進めていきたい。一応の結論が出た時点で次は地域との事については次に進めるということで。以上をもちまして第 2 回適正配置検討委員会の協議を終わります。

6. 閉会宣言

田辺主査 ありがとうございます。それでは学校教育課長から。

高橋課長 色々ご意見いただきまして本当にありがとうございました。最初に年 4 回と言いましたが、足りないのではと思います。ですから回数を増やすような形をお願いさせていただきたい。それである程度深く入って行って色々な考え方を出していただき、議論していただいてまとめていただきたい。ただ、統合ありきという考えではなくて子供にとって一番いい教育環境はどういうものか。教

論の数も変わってきますし、全体を見た形と雫石町の歴史もありますし、そういった部分も踏まえた上で、子供達にとって一番いい教育環境についてこうあるべきということを宣言していただければいいと思います。今日は長時間にわたって本当にありがとうございました。それでは、第2回小学校適正配置検討委員会をこれで終了させていただきます。ありがとうございました。

7. その他

<西和賀町の小学校統合について>

副委員長 西和賀町の教育委員会が中心になって、適正配置検討委員会を設けていただき、私の方に報告書をいただいた。報告書の中に旧沢内村は小学校1校が望ましいと言うのと2校案が出て大変もめた。けれど委員会の意見として将来、もう一度統合問題を考えなくてはならない起案をやらずに、1校にしてしまおうという意見が大多数になり決まりました。それから旧湯田町も1校でよしということになってそのとおりに案を出すと言ったら、議員さん達を始め地域の人達から陳情書が続々と出てきて、力のない町長がもたもたしたということです。

委員 葛巻でも長くなりましたよね。頓挫して中断したと。

副委員長 みなさんにわかってほしいのは、学校の先生達が困ったということです。うちの校長は統合しなくていいのではと言った言わないということがあって先生達も困ってしまって県教委に言った。それ以来学校統合については岩手県教育委員会は関知しないこととする、あくまで市町村立は市町村の教委において決めて下さいとなって、先生方に勝手なことをお願いしないでくださいということも言われた。1番混乱したのは葛巻より安代。議会に出したものを引っ込めたという経過があって何10年とかかったわけです。そして新校舎にならずに昔懐かしいレトロなまま活用されている校舎が安代にはある。今現在は八幡平市ですが。そういうことを勉強して西和賀町の統廃合に臨んだわけです。